

■生徒の学力の状況

- どの学年も落ち着いて授業に参加し、意欲的に個々の学習に取り組んでいる。
- 昨年度より更に効果を上げるために数学の少人数習熟度別授業の授業を2・3年で展開しているが、生徒の意欲も向上し、成果が上がり始めている。
- 教科により、苦手意識が強く、下位者が多い現状である。

■授業革新推進に向けた、指導上の課題

- 授業規律の確立を常に意識し、落ち着いた授業展開を継続すること。
- 学年相応の基礎的・基本的内容の定着を図るために、きめ細かな個別支援の継続すること。
- 思考力・判断力・表現力の向上を目指すための授業展開を工夫するとともに、読み解く力を育成すること。
- 授業スタンダードに基づき主体的、対話的で深い学びを実現する授業展開をすること。

■学校経営方針より(学力向上に関わる内容から)

- 育成すべき資質・能力を明確に捉え、「主体的・対話的で深い学び」及び「板橋区授業スタンダード」の視点から、生徒が「分かった・できた」と実感する授業を実践する。
- 学びの成果を実感させ、学習意欲向上を図るために、生徒が学習の見通しを立て、自らの言葉で学習の内容と学習を通しての気付き等について自らの言葉で振り返る活動の充実を図る。
- 「文章や図表等から必要な情報を正確に取り出し、比較・関連付けて読み取り、その意図や背景、理由を理解・解釈・推論して解決したり表現したり、要約する」活動を計画的に入れ、読み解く力を育成する。

■授業革新推進に向けての具体的な方策

視点1	視点2	視点3
問題解決型・探究型の授業	協働学習の導入	指導と評価と支援の一体化
○各教科において、適切な課題を設定し文章、図表等から必要な情報を取り出す→比較・関連付けて読み取る→理解・解釈・推論・表現要約する活動を行う。	○一人ひとりが自分の考えをもつ場面、他の人の考えを聞いたり活動を見たりしながら、自分の考えと比較したり組み合わせたりして、よりよい考えを創り出す場面を設定し、対話を促す。	○本時の具体的なめあてを提示し、生徒の良い点や進捗状況などを適正かつ公平に評価し、必要に応じた個別の支援の充実を図る。

■いたばし学び支援プラン2021の実現に向けた取組

授業におけるマナー・ルールの徹底	学習環境の充実	教員の指導力向上
○授業の開始と終わりは全員そろってあいさつをする。 ○お互いの「学ぶ権利」を守る。 ○間違っただけに対するからかいは決してやってはいけない。 ○先生または他の生徒の発言は私語をせず、しっかり聞く。 ○授業の流れとは別に、意見・質問があるときは挙手をする。	○全学級でICT機器を効果的に活用し、重要な部分を拡大して提示したり生徒の考えの共有化を図ったりする。 ○教室環境のユニバーサルデザインに努める。 ○違いを認め合い、互いに学びあう人間関係を構築する。	○教職員の課題に応じ、研究推進委員会を中心に校内OJTを推進し教員の指導力の向上を図る。 ○板橋区教科等指導専門官の公開授業に参加し、指導力向上に努める。 ○学びのエリア内の研修を通じて、9年間を見通した指導ができるようにする。